

問題を解決されたものとして、其論證を遺物に寫されてゐるもので見る事にしたいと思ふ。

然しながら、常に遺物は、文獻の教ふる所を確めるに止まる事を注意しておかねばならぬ。それで紅蓮が奇瑞であり、従つて清淨な誕生の象徴であるとしても、之は、只の想像ではない。一切の有情を縛する輪廻の中に、諸趣の轉生を受ける。或者は鳥や蛇の様に卵生し、或者は哺乳類の様に胎生し、更に蟲の場合の如く自然に生じ、或は諸天の如き超自然のもある。けれども天上では地上の様に生れるのではなく、又、出産の羞恥苦痛がなかつたといふ事は、容易に許されると思ふ。然らば如何との問題になつて、數多の彌陀極樂の現圖や、彌陀の淨土を説く文面で、「衆生は蓮花の中に、自然に化生して、跏趺して座す」とあるので知れる。之は短い句であるが、その中に、殊に眞意を解し難い象徴の意味が、眞に捕へられる。こゝで蓮花は常に徵象であるのみでなく、必然的な仲介物になつて、謂はゞあらゆる超自然的出生の母胎となつてゐるのである。